

# 平成20年度 第2次小樽市温暖化対策推進実行計画の推進状況

## 1. 実行計画の削減目標

計画期間中の温室効果ガスを、各年度において1990（平成2）年度の排出量から6%以上削減する。  
（計画期間：平成18～22年度）

## 2. 温室効果ガス総排出量の目標達成状況

(トン-CO<sub>2</sub>)

	1990(H2)年度	2008(H20)年度	増減量	増減率(%)
温室効果ガス総排出量	36,051	29,072	▲ 6,979	▲ 19.4

目標6. 0%以上削減に対し、実績19.4%削減で達成。

## 3. 平成19年度（前年度）との比較

(トン-CO<sub>2</sub>)

	2007(H19)年度	2008(H20)年度	増減量	増減率(%)
温室効果ガス総排出量	32,108	29,072	▲ 3,036	▲ 9.5

### 温室効果ガス別・調査項目別の排出量

(二酸化炭素換算 トン-CO<sub>2</sub>)

温室効果ガス	調査項目	2007(H19)年度	2008(H20)年度	増減量	増減率(%)	
二酸化炭素	公用車	ガソリン	292	288	▲ 4	▲ 1.4
		軽油	472	419	▲ 53	▲ 11.2
	燃料消費	灯油 (冬季排出分)	3,620 (3,620)	3,407 (3,407)	▲ 213 (▲ 213)	▲ 5.9 (▲ 5.9)
		A重油 (冬季排出分)	9,791 (7,509)	8,561 (6,697)	▲ 1,230 (▲ 812)	▲ 12.6 (▲ 10.8)
		液化石油ガス(LPG)	42	39	▲ 3	▲ 7.1
		都市ガス (冬季排出分)	328 (224)	309 (214)	▲ 19 (▲ 10)	▲ 5.8 (▲ 4.5)
	電気使用量 (冬季排出分)	17,010 (5,247)	15,529 (4,376)	▲ 1,481 (▲ 871)	▲ 8.7 (▲ 16.6)	
メタン	下水処理	408	394	▲ 14	▲ 3.4	
一酸化二窒素	自動車走行	12	11	▲ 1	▲ 8.3	
	麻酔剤	130	112	▲ 18	▲ 13.8	
ハイドロフルオロカーボン	カーエアコン	3	3	0	0.0	
温室効果ガス排出量		32,108	29,072	▲ 3,036	▲ 9.5	

※冬季排出分は、その調査項目におけるロードヒーティング及び暖房による排出量

### 冬季エネルギー消費による排出量

(二酸化炭素換算 トン-CO<sub>2</sub>)

温室効果ガス排出量		2007(H19)年度	2008(H20)年度	増減量	増減率(%)	
		32,108	29,072	▲ 3,036	▲ 9.5	
内訳	冬季排出	ロードヒーティング	5,724	4,865	▲ 859	▲ 2.7
		暖房	10,876	9,829	▲ 1,047	▲ 3.3
	その他	15,508	14,378	▲ 1,130	▲ 3.5	

#### 4. 点検結果の評価と今後の取組

##### (1) 1990（平成2）年度比19.4%減、削減目標6%以上を達成

2008（平成20）年度の温室効果ガスの総排出量は、29,072トンで、1990（平成2）年度より6,979トン減少し、削減率は19.4%となり、削減目標の6%以上を大幅に上回り、目標を達成している。また、前年度の2007（平成19）年度の結果と比較しても、3,036トン（9.5%）減となった。

##### (2) 最大の削減要因は、冬季の高かった平均気温と少なかった積雪深による影響

温室効果ガス別・調査項目別の排出量をみると、2007（平成19）年度と比較して増減がなかったカーエアコン以外の項目は、すべて減少している。大きく減少したものは順に、電気1,481トン減（冬季排出分871トン減）、A重油1,230トン減（冬季排出分812トン減）、灯油213トン減（冬季排出分213トン減）、軽油53トン減、都市ガス19トン減（冬季排出分10トン減）、麻酔剤18トン減、下水処理14トン減となっている。

冬季エネルギー消費による排出量を見てみると、ロードヒーティングや暖房による「冬季排出」項目が温室効果ガス削減量3,036トンのうち1,906トンとなり、全体の約6割を占めている。これは、昨年度と比較して、冬季の平均気温で0.8度高く、降雪量は多かったものの積雪深が少なかったため、ロードヒーティングや暖房といった冬季エネルギー消費による排出量が大きく減ったためである。また、平年と比較しても冬季の平均気温で1.1度高く、降雪量で83センチメートル、積雪深で31センチメートル少なく、暖冬による影響が大きかったものと考えられる。

冬季排出以外の「その他」の部分については、1,130トン減少し、削減率9.5%のうち約4割を占めている。これは、エネルギーを大量に使用する施設において、暖冬に合わせた温度管理を徹底するなど、職員による積極的な温室効果ガス排出抑制の努力によるものであり、各部における効率的な施設管理の取組、環境配慮行動の実践が効果をあげたものと考えられる。

##### 【参考 気象データ】

	平年値	2007(H19)年度	2008(H20)年度
平均気温(°C)	-1.8	-1.5	-0.7
降雪量(cm)	722	468	639
積雪深(cm)	118	126	87

※平均気温は12～3月の月間値の平均

##### (3) 今後も環境配慮行動の徹底を推進

2008（平成20）年度の温室効果ガス排出量は、第2次実行計画の削減目標を大きく上回った。温室効果ガスの削減量は、冬期間の気象条件により大きく影響を受けるが、2008（平成20）年度は、暖冬により、その影響を受けたかたちとなった。

一方で、エネルギーを使用する施設において、温度管理を徹底するなど、効率的な管理に努めたことによる削減もみられ、職員一人一人の温暖化防止に向けた取組の成果も大きいと考えられる。

今後も、各年度において削減目標を達成し続けるために、環境配慮行動の徹底を図っていく必要がある。